

描きたい
ものを描く!!

p3-軍曹の受難

p5-絵

p6-触手の乳母エルフ様

p8-絵

p9-軍曹の受難・後編

p12-ママンと赤ちゃん達

FOR ADULTS

「おい、軍曹どのは発情期か。ちよっとばかり慰めてやるべきかあ？」

「よせ。国際法規で捕虜への暴力行為はご法度だ。……捕虜自身がそれを望まん限りはな。」

「んあ？なんだその指環？」

「『ヒト操作』の符呪品だ。符呪の練習台として作成した。試しにこれを嵌めてかの女に何か命じてみたらどうだ」

「へー、面白れえもん作つたな。そーだな……んじや」軍曹！軍服を開いてオッパイ晒せ！

「ああっ!？」

この紛争地で我々の部隊は奴らの奇襲に遭い捕虜として収容された。20億ウォルデンとアダマンチンを要求した。

一応として最低限の人権のある捕虜生活を送る中、私は不運にも発情期をもよおした。

すべての女性のエルフ種に十年に一度必ず訪れる発情期……これにかかれれば、たとえ如何に徳を積もうが禁欲的であろうが全ての女は性衝動を抑えられず単純な術式すらも使用できぬほど思考が停止する。

私は軍人として、それが始まる前に己の脳に感覚麻痺の術式をかけ欲求を消しながら隊員たちをしごいてきた。

だが我々はこので、全ての術式の発動を抑制する強力な府呪枷を装着させられ、僅かな発光の術式すらも使用できなくなっていた。

……当然ながら感覚麻痺など使えようがなかった。

あれよあれよという間に、私は己の手で己の股を下品に開き、奴らを受け入れる体勢をとっていた。

「おい、怖い顔をしながら下のお口はダラダラ涎を流してらっしやいますなあ軍曹ど！」
「よ、よせ……触るな、よせ……あっ!？」
オークの遠慮のない太ましく骨ばった指が私の秘所にずるずると入り込む。

「へいへっ。嫌そうな顔すんなよ。俺様の極太チンポを受け入れる準備をさせていただいてんすよ！」

「……貴様強姦する気かっ……今すぐその手を出せ、やめろ、やめ……あっ!？」

不快感と嫌悪感で気が狂いそうな私をよそに、部神経な指は膣内を無礼講にかきまわし、Gスポットを執拗に刺激し、私の肉体を否応なしに昂らせ、出したくもないような声を出させた。

私は己の意志でなく己の手で、着用していた軍服を開き、乳房をテロリストたちの面前に晒した。

「そろそろほぐれてきたな。ほら見ろよ、これから強えー女を好きにできるせいで俺のチンポぎんぎんだぜ」

「ひっ……!!」

そこにあるのは男の腕ほどの太さを持つオークのそそり立つ男根だった。

「強姦だなんだ言うけどナァ、俺の前で物欲しそうにお股開いている下品な軍曹が悪いんだぜ。観念して現実を受け入れな……っとお!!」

「あがあああああああ
あああ……」

容赦なくそれが私の膣をこじ開け侵入を始めた途端わずかに骨盤が歪む感覚を覚えた。

「くっそ、さすがにオーク女に比べてハイエルフのまんこは小さっせえなあ!おら、死ぬんじやねえぞっ……ってあんたもそんなヤワでもねえか!!」

「ひっ……いぎっ、あ、かつ……!!」

「これから俺たちをいくらでも受け入れられるようなガバマンにしてやるからよ、安心しなっ!!」

奴は笑いながら、容赦なく私の膣を己の射精のための道具を使うよう抜き差しを始めた。

そこにあるのは男女の営みではない。肉が無理やりスられる感覚しかない。ただの拷問のような苦痛だった。

「う、うぐ……あ……あ……っ……」

「う、うぐ……あ……あ……っ……」

「はあ……はあ……っ……あ……
処女みてえなマンコだったわ。最高……俺もオークとはいえエルフの端くれだからよお、孕んじまったらわりいな」

「……………」

感覚麻痺の術式には欠陥があり、度重なる使用により生殖機能を失う。

それゆえ発情期のたびに数十回とこれにかけてきた私の子宮も卵巣も……もう完全に使い物にならなくなっているはずだ。

「だが、もう何も考えなくなかった。」

「この期に及んで涙の一滴も出さねえたあ大したタマだな。さすが歴戦の軍人だ。調教しがいがあるってモンだぜ」

「おい、終わったんなら次は俺にやらせろよ」「いや俺様だ!」「キツマンじゃなくなるうちになあ!ガハハ」

奴らの下卑た笑いが遠くなっていく。



skebのご依頼絵。
獣人の女王が人身売買にかけられている様子です。



skebのご依頼絵。
サギユバスのお姉さんでした。



ポストカードのよし子。

数百年前、触手に乳腺をいじられたことで
発情期に母乳を分泌してしまう体質になっ
てしまったエルフ様。

「はあ…今日もおっぱいの中がばんばんだわ。
あの子たちにミルクあげなくちゃ」

かの女は夫が国外出張でいない中、森で見つけた
育児放棄された触手の赤ちゃん達を持ち帰り育てることで、
その寂しさを紛らわせていたのでした。
そんな中おとすれてしまった発情期…

普段はペット用のごはんをあげていたかの女でしたが、
エルフ種の体液は他生物にとってとても栄養価のあるもの
でもあるため、それをあげようと決めました。

「あんっ… あっ そんな吸い方しちゃだめっ…」
お腹を空かせた赤ちゃん達はママの乳頭にむしゃぶりつき、
一匹はおま○こに潜り込みごくごくミルクと愛液を
飲み始めます。

発情期のたび様々な生物に母乳を求められ続けたことで、
かの女の乳頭はとても敏感。
この授乳行為はかの女にとってたいへん気持ちよく、
また母乳分泌をさらに促すうえ赤ちゃん達も元気に育つので
まさに一石二鳥というわけでした。

授乳を終えたかの女のおっぱいは、
またいつものサイズに戻ったのでした…。

夜も赤ちゃん達はママにべったりです。

エルフ様がベッドの上で眠っていると、かこの中から抜け出した触手たちは睡眠中のママの寝間着にもぞもぞと潜り込み、またちゅうちゅうとおっぱいと愛液を求め始めます。

「んっ…♡んっ…♡」

一匹は力の抜けているママの秘所に元氣よく入り込み、膣内で元氣よく子宮周りのポルチオを刺激しながら愛液の分泌を促します。

「だ、め、あんっ…♡おま〇こ…♡きもちよくしないでえっ…♡」

眠っていても気持ちが良いのでしょうか、とても感じてしまうエルフ様。かの女はこれを夢の中でできごとと勘違いしているのでしょうか、起きていた間と同様に悩ましい声がたつぷりと漏れ出ます。きつと夢の中でも気持ちの良い夢を見ているのでしょうか。

07

「あああああああああああ
ああああんんっ…♡…♡…♡」

やがて快楽の頂点に達すると腰をあらん限りのけ反らせ、まるで出産するかのよう膣圧で赤ちゃんをひり出してしまおうのです。

赤ん坊たちもそんなママのおま〇こにめげずに、またずるずると入り込み愛液を補給し続けるのでした……

「はあ…今日もおっぱいの中がばんばんだったわ。あの子たちにミルクあげなくちゃ」

普段はベット用のごはんをあげていたかの女ですが、エルブ種の体液は他生物にとつてとても栄養価のあるものでもあるため、それをあげようと思えました。

夜も赤ちゃん達はママにべったりです

エルフ様がベッドの上で眠っていると、かこの中から抜け出した触手たちは、睡眠中のママの寝間着にもぞもぞと潜り込み、またちゅうちゅうとおっぱいと愛液を求め始めます。

「んっ…♡んっ…」

「だ、め、あんっ…♡おま○こ…♡♡
奥ばかりっ…♡きもちよくしないでえっ…♡♡

眠っていても気持ちが良いのでしょうか、とても感じてしまうエルフ様の女はこれを夢の中でできごとと勘違いしているのでしょうか、起きている間と同様に悩ましい声があつぷりと漏れ出します。

「あんんっ… あっ そんな吸い方しちゃだめっ…」
お腹を空かせた赤ちゃん達はママの乳頭にむしりやぶりつき
一匹はおま○こに潜り込みごくごくミルクと愛液を
飲み始めます。

発情期のたび様々な生物に母乳を求められ続けたことで、かの女の乳頭はとも敏感

この授乳行為はかの女にとってたいへん気持ちよく、また母乳分泌をさらに促すえ赤ちゃん達も元気に育つので、まさに一石二鳥というわけでした

また、いつものサイズの女のおっぱいではなかった……

「あああああ ああ ああ ああ ああ ああ
あああ あんん つつ ……


赤ん坊たちもそんなママのおま○こにめげずに
またずるずると入り込み愛を補給し続ける
のでした……。



私の心身が唯一休まるのはいつも夜間だった。これほどまでに私の両隣に信頼できる隊員たちがいる安心感を得たことはない。

ギイツ……

物音に目を覚ますと、私をいつも犯すオークの一人が鍵を開けてそろりと侵入してきた。

「なんっ……!? おまえ……っ」

「シィッ。声出せば隊員たちが起きるぜ。いいのか?」

奴は私をうつ伏せにし、下半身を剥いた。

「へっへ。やっぱ引き締まっていた尻と尻穴だな。可愛い部下たちがいる場所でやるってんのも興奮するだろ?」

「よ、よせ……今は……頼むからよせ……!!」
「せいぜい声出さねえように緊張することだな」

「いぎっ……!!!」

「ほらほらエッチなクソ穴に入ってく入ってく……くうっ……たまんねえっ……!!!」

「お、あ、あっ……!!!」

「んおほおおおお
おおおツツツ……」

ずるりとそれが引き抜かれたと同時に
排便する以上の快感が押し寄せ
私は軽く達した。

「うおお、ミッチリ入っちゃったぜえっ
……ふんっ……」

それから奴は完全に開発され果て爛れた尻穴に
緩急をつけて抜き差しし、いつ私が大声で嬌声を
あげるのか反応を楽しんだ。

「さすが軍曹殿、いくらアルラウネ潰けにされたところで
隊員に恥を晒すような真似は死んでもやらねえってか」

「ふうっ、う、うぐっ……ひっ……ん……ん……!!!」

「頼む、誰も気づかないでくれ……っ……
これが知れたら私は兵士たちに
どう顔向けすればっ……!!!」

私は……私の身体は一体この先
どうなってしまうんだ?

気が狂いそうな尻穴の快感に悶えながら
私は血が滴るほど歯を食いしばり、
長い長い夜を耐えた……

……私はこの時、すでに奴らの腕の太さほどの
男根をすんなり受け入れるほどに尻の調教も受けていたのだ。

あれから十数日――。
すっかりかの女の背丈よりも巨大になり果てた赤ちゃん達。

エルフ種の体液は他生物に豊富な栄養を与えるいっぽうで、
摂取し続けるとその生物を急成長させてしまう
ドーピングのような効果を発揮してしまう側面があります。

成長することでママの肉体を様々な手法で、
気持ちよくさせることを覚えた彼らは、細長い触手を
かの女の乳頭から乳管に潜り込ませ
やがて乳腺に到達させてさらなる母乳分泌を
毎日促し続けました。

気付くとかの女のおっぱいは頭3・4分程度にも肥大し、
より栄養価の高いミルクをたつぷりと分泌し温存できる
乳房に変化していました。

日を追うごとにどんどん巨大化する赤ちゃん達は
エルフ様夫婦の寝室を所狭しと陣取り
四六時中母子ともにゆったりと愛し合ったのでした……。

かの女の発情期が終わるころには3匹はすっかり
立派な大人になり、ママに見送られながら
元氣よく森へと帰っていったのでしたとさ。
おしまい。

…その後、子ども達の粘液でねちよねちよに
なってしまった部屋を掃除しているところを
帰国した夫に知られ、呆れられたのはまた別の話…。

Flieger 14 August 2022
[http://whitecross.sakura.ne.jp/
eririn810@gmail.com](http://whitecross.sakura.ne.jp/eririn810@gmail.com)

◆当書籍の高校生を含む未成年の購読及び譲渡を禁ず。
◆当書籍本文のインターネット等へのアップロードを禁ず。
当方は2015年及び16年の違法アップロード事件において
担当弁護士と兵庫県警に相談し告訴状を提出し、
その後の犯罪行為においても厳格な措置を講じております。
ご理解をお願い申し上げます。

◆The uploading of all of this book to the
Internet and other media is prohibited.
I've consulted with the lawyer in charge
and the Hyogo Prefectural Police in the
cases of illegal sharing in 2015 and 2016,
and have filed a complaint,
and I'm taking strict measures in subsequent
criminal acts.

I appreciate your understanding.